

シラバス参照

講義名	法学		
(副題)	Jurisprudence		
開講責任部署	子ども育成学部子ども育成学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4時限
校地	呉羽キャンパス		
開講時期	3年後期		
必須・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 彼谷環

授業の概要	「社会あるところ法は存在する」(Ubi societas, ibi ius)。法は、特定の時代の、特定の地域における価値観が大きな影響を及ぼす。現代の日本、そして世界ではどのような法が適用され求められているのだろうか。また、特に子どもに関わる法律としては、どのようなものが存在するだろうか。社会と法の相互作用を確認しながら、将来、教育や福祉の世界で活動する者にとって必要な法的知識と価値判断について考えていこう。
キーワード①	子ども
キーワード②	家族
キーワード③	少年法
キーワード④	生命倫理
キーワード⑤	国際法

到達目標

到達目標①	①子どもの教育、保育、福祉に関わることを意識して、最低限理解すべき法原則について、理解できる(40%)。
到達目標②	②裁判員制度の導入をきっかけに身近な存在となった法律について、制定の趣旨とその効果について理解することができる(30%)。
到達目標③	③法の成り立ちから、社会制度と法の関係、グローバル社会における法の役割を理解することができる(30%)。
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

ディプロマポリシー①	ディプロマポリシー②
------------	------------

①「人」としての資質・能力（人間性の向上）	④21世紀を生きる社会人としての資質・能力（社会性の向上）
-----------------------	-------------------------------

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
①子ども育成の教養	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
○		○	◎	○

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○				○

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	ガイダンス——「法の世界」をのぞいてみよう。 ・世界の文明やギリシャ悲劇を題材に、自然法と実定法の区別を学ぶ。	【予習】法ができることとできないことについて考えてみる。 【復習】テキストや配布資料を参考に、現代社会で法が介入できる場合とそうでない場合について整理しておく。	180分
第2回	法とは何か——正義との関係、道徳との違い、法の体系	【予習】「法」についてどのように説明することが出来るか、考えておく。【復習】今年成立した法律のなかで、最も関心があるものについて、その目的と概要をまとめておく。	180分
第3回	家族から考える法①——婚姻と離婚、夫婦の権利義務	【予習】テキストを活用して、日本と諸外国の婚姻制度の違いについて調べておく。【復習】日本の婚姻制度の特徴と問題点についてまとめる。	180分
第4回	家族から考える法②——親子をめぐるルール、相続に関する問題	【予習】テキストを活用して、実親子関係と養親子関係のそれぞれの制度の特徴について調べておく。【復習】最近の生殖補助医療により生じる新たな親子関係の課題についてまとめる。	180分
第5回	さまざまな契約——「契約が成立する」とは？ 問題のある意思表示	【予習】契約をめぐるトラブルの実例について調べておく。【復習】13種類の典型契約を整理して覚える。	180分
第6回	消費生活と法——現代の消費者問題、訪問販売とマルチ商法	【予習】近年問題となった消費者事件について調べておく。【復習】配布資料を参考に、薬害事件について概要をまとめる。	180分
第7回	医療と法①——生殖補助医療の発展、妊娠・出産の自己決定（リプロダクティブ・ライツ）	【予習】生殖補助医療の発展の歴史をまとめておく。【復習】最新の生殖補助医療により生じる諸問題について整理する。	180分
第8回	医療と法②——脳死と臓器移植、安楽死と尊厳死	【予習】それぞれの概念の違いについて把握しておく。【復習】日本の安楽死事件をめぐる概要と現代社会への問題提起について考察する。	180分
第9回	犯罪と法①——突然逮捕されてしまったら？ 犯罪被害と罪刑法定主義	【予習】罪刑法定主義について調べておく。【復習】様々な「解釈」の方法についてまとめておく。	180分
第10回	犯罪と法②——少年法の存在意義、「修復的司法」の考え方	【予習】少年が犯罪行為をした際、どのような手続きが取られるか調べておく。【復習】少年法の改正の歴史とその特徴についてまとめておく。	90分
第11回	仕事と法①——職場の労働条件はどうやって決まるの？ 採用と雇用の終了	【予習】「労働法」とは何を指すか、調べておく。【復習】不当な解雇からの救済方法について整理しておく。	180分
第12回	仕事と法②——さまざまなハラスメント、仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）	【予習】生活と労働の両立を図るための法律を調べる。【復習】「働き方改革関連法」のポイントをまとめておく。	180分
第13回	子どもと法——未成年者の意見表	【予習】法律が示す大人と子どもの境界線について整理しておく	180分

	明権、「主権者」による政治	く。〔復習〕諸外国の主権者教育の特徴について整理する。	
第14回	国際法事始め	〔予習〕国際法の歴史と特徴を学び、改めて子どもの権利条約の意義を考える〔復習〕子どもをめぐる国際的なルールについて考えてみよう	180分
第15回	国際社会と法—AIの進展と社会構造の変化？ グローバリゼーションと法	〔予習〕AIが社会に投げかける問題を考えてみよう。〔復習〕AIの発展が新たな法制度を生み出す例について調べてみよう	180分
第16回	0		

評価方法	到達目標項目①では、単位レポートで評価する（50%）。 到達目標項目②及び③では、授業中に指定する課題を中心に評価する（50%）。 なお評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価する。
------	---

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上（DP1）	50%
専門性の向上（DP2）	50%
社会性の向上（DP3）	0%

使用資料<テキスト>	丹羽徹編『子どもと法』（法律文化社）
使用資料<参考図書>	テーマにあわせ適宜資料を配布する。
授業外学修等	・授業のはじめに今日生起している法的ニュースを取り上げるので、各自新聞をよく読むこと。 ・授業テーマについては、テキストや資料・文献等を参考に復習を心がけること。
授業外質問方法	時間外の質問は、メールで受け付ける。 kayatama@tuins.ac.jp
オフィス・アワー	授業終了後

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報科学概論		
(副題)	Introduction to Information Science		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	1年後期		
必須・選択区分	学部必修		

担当教員

職種	氏名
准教授	◎ 越智士郎

授業の概要	情報科学概論では、コンピュータ、情報端末、ネットワークなどの情報技術やインフラと私たちの社会との関わりについて、身近な事例を通して仕組み学び、社会を支える情報システムについて学ぶ。日常生活で無意識に利用している情報システムや情報機器などの仕組みの一端に触れながら、コンピュータ、ネットワークと情報化が現在の情報社会にどのような影響を与えているかを学ぶ。また、ビッグデータ、データサイエンス、人工知能（AI）、IoT（モノのインターネット）、デジタルトランスフォーメーションなど、最近の話題も盛りこんで、「情報とは何か」「情報科学とは何か」を学ぶ。講義にはスマートホン・タブレットを使用し、情報科学に対する理解を深める。本講義は、富山国際大学 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラムの対象科目で、プログラムの修了認定を受けるための必修科目である。（担当教員：企業での実務経験あり）
キーワード①	コンピュータ
キーワード②	インターネット
キーワード③	セキュリティ
キーワード④	データサイエンス
キーワード⑤	人工知能

到達目標

到達目標①	①情報をとりまく技術について説明できる（30%）
到達目標②	②情報をとりまくルールや制度について説明できる（30%）
到達目標③	③学生・社会人としての最低限の情報リテラシーを身につける（40%）
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

ディプロマポリシー①	ディプロマポリシー②
------------	------------

4. 社会人としての能力（社会性の向上）

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①

カリキュラムポリシー②

①現代社会に必要な基礎知識の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
○	○	◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○				

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	ガイダンス・授業の進め方・評価方法 社会で起きている変化 社会で起きている変化を知り、情報科学を学ぶことの意味を理解する。	〔予習〕 シラバスを読んでおくこと。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	70分
第2回	コンピュータの仕組みと歴史 コンピュータを動かすハードウェアの仕組みと、現在までの歴史について理解する。	〔予習〕 コンピュータの仕組みと歴史について調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第3回	オペレーティングシステム・ソフトウェア コンピュータを動かすオペレーティングシステム・ソフトウェアの仕組みについて理解する。	〔予習〕 オペレーティングシステム・ソフトウェアについて調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第4回	プログラム・アルゴリズムとデータ構造 プログラムとアルゴリズムの基礎について理解する。	〔予習〕 プログラム・アルゴリズムとデータ構造について調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第5回	インターネットの仕組み インターネットを通じてどのように情報が伝達されるかを理解する。	〔予習〕 インターネットの仕組みについて調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第6回	画像・音声・動画メディア コンピュータの中で画像データや音声データ、動画データなどがどのようなしくみで扱われているかを理解する。	〔予習〕 音声・動画メディアについて調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第7回	著作権とプライバシー 情報を扱い活用する上で注意すべきルールについて理解する。	〔予習〕 著作権とプライバシーについて調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第8回	暗号 情報を守るための技術とその限界について理解する。	〔予習〕 暗号について調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第9回	情報セキュリティ 情報を扱い活用する上で注意すべき行動について理解する。	〔予習〕 情報セキュリティについて調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第10回	データベース 情報を整理する方法について理解する。	〔予習〕 データベースについて調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第11回	ブロックチェーン これまで使われてきたデータを整理する手段と、これから普及が期待される新しい技術の概要について理解する。	〔予習〕 ブロックチェーンについて調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第12回	データリテラシー データを適切に読み解き、説明する方法について理解する。	〔予習〕 データの表現方法（棒グラフや折れ線グラフなど）について調べる。〔復習〕 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分

		資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	
第13回	データサイエンス どんなデータが集められ、どのように活用されているかを理解する。さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを理解する。	[予習] データサイエンスについて調べること。 [復習] 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第14回	IoT (Internet of Things) ・クラウド データを収集、蓄積、活用するための新しい技術について理解する。	[予習] IoT (Internet of Things) ・クラウドについて調べること。 [復習] 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分
第15回	人工知能 (AI) ・ビッグデータ データ・AIを活用するために使われている技術の概要を理解する。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを理解する。	[予習] 人工知能 (AI) ・ビッグデータについて調べること。 [復習] 授業の講義資料を再確認し、ウェブで出題される課題を提出すること。	90分

評価方法	各回の課題提出内容にて評価する (100%) なお評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価する。
------	---

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	40%
専門性の向上 (DP2)	30%
社会性の向上 (DP3)	30%

使用資料<テキスト>	各回で資料を配布する
使用資料<参考図書>	樋口知之ほか (著) 北川源四郎・竹村彰通 (編) 「教養としてのデータサイエンス」講談社サイエンティフィック その他必要に応じて都度指示する
授業外学修等	本講義ではスマートフォンもしくはタブレット端末を利用する。両方とも持っていない者はPCを持参すること。 (あらたにスマートフォンを購入する必要はありません)
授業外質問方法	情報共有ツールやメール、授業の前後やオフィスアワーなどに直接声をかけてください。
オフィス・アワー	大学ホームページ (教員ページ) に掲載のとおり。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	人工知能とその活用		
(副題)	Artificial Intelligence and its Practical Application		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年後期		
必須・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 新森昭宏

授業の概要	<p>画像認識・機械翻訳・対話ロボットなど、人工知能（AI: Artificial Intelligence）を活用した製品やサービスが広く使われ始めている。これらの成果は、1950年代からの長い歴史を持つ研究の積み重ねによってもたらされたものである。現在も多くの研究課題があり、継続して研究開発が勧められている。それと並行して、製造・流通・金融・医療・農業・水産業など多くの産業分野への応用展開も進められている。この授業では、人工知能の基礎概念を学び、技術動向と活用状況についての理解を深める。 （担当教員：企業での実務経験あり）</p> <p><注意>本授業では、スマートフォン、またはタブレット端末、またはPCを利用して、小テストや課題を行うため、いずれかを毎回持参すること。</p>
キーワード①	アルゴリズム
キーワード②	探索
キーワード③	論理と推論
キーワード④	機械学習
キーワード⑤	データサイエンス

到達目標

到達目標①	人工知能技術の基礎概念を説明できる。 (40%)
到達目標②	人工知能技術の活用状況を説明できる。 (40%)
到達目標③	人工知能の活用について、自らアイデアを出すことができる。(20%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー

ディプロマポリシー

ディプロマポリシー①		ディプロマポリシー②			
3. スペシャリストとしての能力（専門性の向上）					
カリキュラムポリシー					
カリキュラムポリシー①		カリキュラムポリシー②			
⑨経営情報に関する専門性の向上		③キャリア・実務能力の向上			
キー・コンピテンシー（重視する能力）					
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力	
○	○	◎			
教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○				
授業計画表					
回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）		
第1回	ガイダンス。人工知能をめぐる最近の話題と、人工知能の概要(1) (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	〔予習〕 シラバスを読むこと。人工知能に関する新聞記事やTVニュースを見ておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分		
第2回	人工知能の概要(2)、人工知能の歴史と課題 (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	〔予習〕 人工知能についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分		
第3回	人工知能の基礎：アルゴリズム (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	〔予習〕 「ユークリッドの互除法」について調べておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分		
第4回	人工知能の動向：探索、推論 (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	〔予習〕 深さ優先探索と幅優先探索についてインターネットで調べておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分		
第5回	人工知能の動向：知識表現 (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	〔予習〕 「エキスパートシステム」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分		
第6回	人工知能の動向：機械学習・深層学習 (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	〔予習〕 「機械学習」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分		
第7回	人工知能分野の問題：トイ・プロブレム、フレーム問題、チューリングテスト、強いAIと弱いAI、知識獲得ボトルネック (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	〔予習〕 「チューリングテスト」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分		

第8回	機械学習の具体的方法：教師あり学習 (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 「回帰」「教師あり学習」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分
第9回	機械学習の具体的方法：教師なし学習、強化学習、モデルの評価 (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 「クラスタリング」という用語についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分
第10回	ディープラーニングの概要：多層パーセプトロン、事前学習、GPU (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 「ディープラーニング」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分
第11回	ディープラーニングの概要：活性化関数、学習率の最適化、更なるテクニック (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 「活性化関数」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分
第12回	ディープラーニングの手法：CNN、深層生成モデル、画像認識 (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 物体認識についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分
第13回	ディープラーニングの手法：音声処理と自然言語処理、深層強化学習 (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 自然言語処理についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	90分
第14回	ディープラーニングの社会実装：AIと社会、AIプロジェクトの進め方、データ収集・加工・学習、実装・運用・評価 (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] 最近の新聞で、AIに関する記事について調べておくこと。 [復習] 講義資料を再確認し、課題レポートを提出すること。	90分
第15回	ディープラーニングの応用事例：製造業、モビリティ、介護、インフラ、サービス・小売・物流、農林水産業、金融 (理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。)	[予習] ディープラーニングの応用事例についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すこと。期末試験に向けた学習を行うこと。 なお、理解度を自己確認できるようにするため、これまで課したMicrosoft Formsを使った小テストを繰り返し実施できるようにする。	90分

評価方法	期末試験 (80%)、各回の課題レポート (20%) にて評価する。 「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。
------	---

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	10%
専門性の向上 (DP2)	10%
社会性の向上 (DP3)	80%

使用資料<テキスト>	・「ディープラーニング G検定 公式テキスト 第2版」(翔泳社, 2021)
使用資料<参考図書>	・「人工知能は人間を超えるか」(松尾豊著, KADOKAWA, 2015)
授業外学修等	毎回何らかの課題を課す。提出された課題のうちフィードバックが必要なものは、次回の授業でフィードバックを行う。

	日頃から新聞記事、テレビ番組などで人工知能関連の情報収集をすること。
授業外質問方法	メールまたはオフィス・アワーで対応。
オフィス・アワー	月曜日2限、研究室

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ジェンダー論		
(副題)	Gender		
開講責任部署	子ども育成学部子ども育成学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4時限
校地	呉羽キャンパス		
開講時期	2年後期		
必須・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 彼谷環

授業の概要	社会的・文化的な性のありようを意味するジェンダーは、時代や地域、社会によって意識や変化がみられる。ジェンダーの概どのような社会のなかで成立し、国・地域の制度や法に影響を与えてきたのだろうか。日本は毎年発表されるジェンダーギャップ指数での順位が低迷し続けている。特に政治・経済分野で「ジェンダー平等」を実現するにはどのような政策が必要だろうか。た、性の多様性を支える施策について、先進国の好事例と比較しつつ検討してみよう。
キーワード①	ジェンダー平等
キーワード②	性の多様性
キーワード③	隠れたカリキュラム
キーワード④	DVの防止
キーワード⑤	SOGI

到達目標

到達目標①	①ジェンダーの概念について、説明できる(20%)。
到達目標②	②これまで普遍的だとされていた考え方に異なる視点があることを、理解できる(40%)。
到達目標③	③「ジェンダー不平等」が生じる社会的・政治的背景を考え、解決する方法について議定できる(40%)。
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
			○			

ディプロマポリシー

ディプロマポリシー①	ディプロマポリシー②
1. 「人」としての能力（人間性の向上）	4. 社会人としての能力（社会性の向上）

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
①現代社会に必要な基礎知識の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
◎	◎		◎	○

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
○	◎		◎		○

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	ガイダンス——「ジェンダー」とはなにか。「両性の平等」原則と現実とのギャップを日本、世界の現状から考える。	〔予習〕「ジェンダー」概念について、文献やネットの情報を活用して調べておく。〔復習〕現代社会でみられる日本と世界のジェンダー差別について整理する。	180分
第2回	近代日本における性差別と今日の動向を整理する——「性別二元論」に基づく社会制度はどう変化しているか？	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕多様な性の存在を認める諸外国の制度について整理しておく。	180分
第3回	教育——学校教育におけるジェンダー・バイアス、「隠されたカリキュラム」について考える。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕文部科学省の通達の内容を理解し、望ましい教育現場の在り方について自分の意見をまとめる。	180分
第4回	家族——現代に残る「家制度」、変容する家族のあり方を考える。	〔予習〕レジュメに目を通しておく〔復習〕家庭生活における男女平等が実現した部分、そうでない部分を整理しておく。	180分
第5回	生殖補助医療とリプロダクティブ・ライツ	〔予習〕資料を読んでおく。〔復習〕生殖補助医療について最新の動向を調べてみる。	180分
第6回	ジェンダーギャップ解消を目指して	〔予習〕資料を読んでおく。〔復習〕世界の様々な団体が発表するジェンダーギャップ指標からわかることをまとめる。	180分
第7回	社会保障——家族モデルの変化と社会保障制度の未来について考える。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読し、日本の現行制度を調べておく。〔復習〕日本の社会保障制度と諸外国のそれとの違いをまとめる。	180分
第8回	性暴力・その1——刑法上の犯罪はどのように変容してきたかを考える。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕刑法における罪の種類が変更したことについてまとめる。	180分
第9回	性暴力・その2——ドメスティック・バイオレンス（DV）、デートDV、児童虐待の「いま」を学ぶ。（外部講師・自治体の相談支援員による講義）	〔予習〕DVが生じる理由と子どもに与える影響について、他の授業科目で学んだことも活用しながら整理する。〔復習〕外部講師の話聞いて感想をまとめる。	180分
第10回	産む自由／産まない自由——「リプロダクティブ・ライツ」（性的自己決定権）の歴史と内容を理解する。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕宗教や文化を背景に、諸外国の制度に違いがあることを理解する。	180分
第11回	性表現——ポルノグラフィと「性表現の自由」、刑法の「わいせつ罪」規定との関係を考える。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕既存の法律を根拠に、どこまでが「表現の自由」として認められるかを考える。	180分
第12回	政策決定——政治・行政における女性参加の促進、「ポジティブ・アクション」について検討する。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕女性の政治参加が顕著な諸外国の制度とその効果についてまとめる。	180分
第13回	司法——犯罪被害者・犯罪加害者とジェンダーの関係性を考える。 性被害者に対する報道による「二次被害」の深刻さ、「加害者に対する教育」にはどのようなものがあるか。	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕犯罪被害者と加害者の報道の仕方について、新聞やネットニュースを比較しながらまとめる。	180分
第14回	男性にとってのジェンダー——多様な社会を目指して	〔予習〕テキストの該当箇所を通読する。〔復習〕男女平等の実現を男性の視点から考察する重要性を理解する。	180分
第15回	世界のなかの性差別——児童婚、持参金制度（インド）、女子割礼（アフリカ諸国）等、人権侵害と指摘される文化的慣習について考える。	〔予習〕これまで学んだ諸外国の性差別について整理しておく。〔復習〕授業内容について、「子どもの権利」の保障という視点からも深められるようにする。	180分
第16回	0		

評価方法	到達目標項目①及び②では、授業中に指定する課題を中心に評価する（50%）。 到達目標項目③では、期末レポートで評価する（50%）。 なお評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価する。
ディプロマポリシー配分比率	
	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上（DP1）	50%
専門性の向上（DP2）	50%
社会性の向上（DP3）	0%
使用資料<テキスト>	犬伏由子・君塚正臣・井上匡子編『レクチャー ジェンダー法・第2版』（法律文化社）
使用資料<参考図書>	テーマにあわせ適宜資料を配布する。
授業外学修等	・授業のはじめに今日生起している法的社会的ニュースを取り上げるので、各自新聞をよく読んでくること。 授業テーマについては、テキストや資料・文献等を参考に復習を心がけること。
授業外質問方法	現代社会学部と合同のオンライン授業のため、時間外の質問はメールで受け付ける。 kayatama@tuins.ac.jp
オフィス・アワー	授業終了後

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住環境デザインⅡ		
(副題)	Living Environment Design II		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年後期		
必須・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 川本聖一

授業の概要	<p>本学の住環境分野に関する授業は、「住環境デザインⅠ」「住環境デザインⅡ」「住環境デザイン演習」「都市空間デザイン」である。</p> <p>その中で、「住環境デザインⅠ」と「住環境デザインⅡ」では、2つの講義を通して住環境に係わる職業人としての一般常識の習得と、「インテリアコーディネーター試験」などの住環境関連資格取得のための基礎知識習得を目指している。</p> <p>「住環境デザインⅡ」では、住まいの設計、構造と環境工学、住まいの法律、生産についてを学ぶ。住宅設計実務者による住宅設計実習を行う予定である。</p> <p>(担当教員：企業での実務経験豊富) (関連SDGs：目標7、目標11、目標12)</p>
キーワード①	住まいの設計と生産
キーワード②	構造と材料
キーワード③	住まいと環境工学
キーワード④	住まいの設備
キーワード⑤	住まいの法制度

到達目標

到達目標①	①住まいの設計の基本事項を説明することができる。(30%)
到達目標②	②住まいの性能に関して説明できる。(40%)
到達目標③	③住まいの法律・生産の基本的項目を説明できる。(30%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー

ディプロマポリシー

ディプロマポリシー①		ディプロマポリシー②			
3. スペシャリストとしての能力（専門性の向上）					
カリキュラムポリシー					
カリキュラムポリシー①		カリキュラムポリシー②			
⑧環境デザインに関する専門性の向上					
キー・コンピテンシー（重視する能力）					
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力	
○		○			
教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○				○
授業計画表					
回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）		
第1回	ガイダンス	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第2回	住まいの設計（1）	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第3回	住まいの設計（2）	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第4回	住まいの設計例	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第5回	住まいの構造	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第6回	住まいを構成する材料	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第7回	住まいと環境工学（気候・空気・音）	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第8回	住まいと環境工学（光・熱）	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第9回	省エネルギーな住まい	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第10回	住まいの設計実習	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第11回	設備機器	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		
第12回	電気設備・照明・防災設備	〔予習〕 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。〔復習〕 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分		

第13回	バリアフリーデザイン	[予習] LINEで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第14回	住宅関連法制度の概要	[予習] SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第15回	住まいの生産とマネジメント	[予習] SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
評価方法	到達目標について、「富山国際大学成績評価基準〔全教科用〕」に従った観点から評価する。毎回の講義の終わりに行う「ミニテスト」（約50%の評価）、全員が提出すべき「必修レポート」（「復習レポート」を含む）、各自興味がある項目を深く掘り下げる「自由レポート」、調べたことを全員の前で発表する「プレゼンテーション」（ミニテスト以外で約50%の評価）の4項目で評価する。頑張った人には、頑張った分に応じて高い評価をする方針である。		
ディプロマポリシー配分比率			
		ディプロマポリシー配分比率	
人間性の向上 (DP1)		20%	
専門性の向上 (DP2)		10%	
社会性の向上 (DP3)		70%	
使用資料<テキスト>	オリジナルプリントを配布 各自フォルダーを用意して配布されたプリントをストックできるように準備すること。		
使用資料<参考図書>	授業の内容はSNS上にアップするので、予習・復習に活用することができる。必要に応じて、SNS上に整理してUPする。		
授業外学修等	授業以外に、自ら調べてそれを自分の言葉でまとめる作業を、ほぼ毎回宿題として出題する。全員が提出すべき「必修レポート」、過去の講義内容を復習する「復習レポート」、各自興味がある項目を深く掘り下げる「自由レポート」がある。		
授業外質問方法	オフィスアワーを中心に随時研究室にて質問を受け付ける他、メール、SNS、にて対応する。遅刻や欠席の連絡は事前にメールやSNSにて行うことを希望する。 メールアドレス : kawamoto@tuins.ac.jp		
オフィス・アワー	水曜日 1時限 (9:00~10:30) 研究室 (439室) にて		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	都市空間デザイン		
(副題)	Urban Space Design		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	3年後期		
必須・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
教授	◎ 川本聖一

授業の概要	<p>本学の住環境分野に関する授業は、「住環境デザインⅠ」「住環境デザインⅡ」「住環境デザイン演習」「都市空間デザイン」である。</p> <p>その中で、「住環境デザインⅠ」と「住環境デザインⅡ」では、2つの講義を通して住環境に係わる職業人としての一般常識の習得と、「インテリアコーディネーター試験」などの住環境関連資格取得のための基礎知識習得を目指している。</p> <p>「都市空間デザイン」では、「住環境デザインⅠ・Ⅱ」で学んだ基礎知識が、実社会における法制度や社会システムの中でどのように生かされていくのかを学ぶ。</p> <p>また、住環境関連産業の発展の歴史や、問題点と今後の展望について学ぶとともに、都市計画の制度とまちづくりの手法も学習する。</p> <p>講義は1回ずつ完結するスタイルで行うため、「住環境デザインⅠ・Ⅱ」を未受講であったり、前回講義を欠席しても、その回の講義は理解できるように進める。</p> <p>(担当教員：企業での実務経験豊富) (関連SDGs：目標7、目標11、目標12)</p>
キーワード①	住宅市場
キーワード②	住宅産業
キーワード③	建築基準法
キーワード④	品確法
キーワード⑤	まちづくり

到達目標

到達目標①	①住環境産業の発展と最新状況を説明できる。(40%)
到達目標②	②住まいに係る法制度とまちづくりの手法を説明できる。(30%)
到達目標③	③今日的な住環境産業界の問題点を認識し、その解決に向けた将来展望のイメージを持つことができる。(30%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

ディプロマポリシー①	ディプロマポリシー②
3. スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
⑧環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
○		○		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○				○

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	ガイダンス	【予習】 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第2回	日本の住宅市場の現状	【予習】 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第3回	住宅産業の誕生と成長	【予習】 LINEで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第4回	住宅産業の構造	【予習】 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第5回	用途地域と建物の大きさ	【予習】 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第6回	法律用語と居室の規定	【予習】 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第7回	安心・安全に暮らすための規定	【予習】 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第8回	品確法1（概要と構造性能）	【予習】 LINEで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第9回	品確法2（火災・劣化・維持管理・省エネ）	【予習】 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第10回	品確法3（空気・光・高齢者・防犯・音）	【予習】 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第11回	都市計画とまちづくり	【予習】 SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。【復習】 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、	75分

		次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	
第12回	まちづくりの理論と実例	[予習] SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第13回	住宅産業の最新技術	[予習] SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第14回	住宅産業の課題	[予習] SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分
第15回	住宅産業の将来展望	[予習] SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。[復習] 講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	75分

評価方法	到達目標について、「富山国際大学成績評価基準〔全教科用〕」に従った観点から評価する。期末考査は行わない。毎回の講義の終わりに行う「ミニテスト」(約50%の評価)、全員が提出すべき「必修レポート」(「復習レポート」を含む)、各自興味がある項目を深く掘り下げる「自由レポート」、調べたことを全員の前で発表する「プレゼンテーション」(ミニテスト以外で約50%の評価)の4項目で評価する。頑張った人には、頑張った分に応じて高い評価をする方針である。
------	--

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	20%
専門性の向上 (DP2)	10%
社会性の向上 (DP3)	70%

使用資料<テキスト>	オリジナルプリントを配布 各自フォルダーを用意して配布されたプリントをストックできるように準備すること。
使用資料<参考図書>	授業の内容はSNS上にアップするので、予習・復習に活用することができる。必要に応じて、SNS上に整理してUPする。
授業外学修等	授業以外に、自ら調べてそれを自分の言葉でまとめる作業を、ほぼ毎回宿題として出題する。全員が提出すべき「必修レポート」、過去の講義の内容を復習する「復習レポート」、各自興味がある項目を深く掘り下げる「自由レポート」がある。
授業外質問方法	オフィスアワーを中心に随時研究室にて質問を受け付ける他、メール、SNS、にて対応する。遅刻や欠席の連絡は事前にメールやSNSにて行うことを希望する。 メールアドレス : kawamoto@tuins.ac.jp
オフィス・アワー	水曜日 1時限 (9:00~10:30) 研究室 (439室) にて

シラバス参照

講義名	情報社会と情報倫理		
(副題)	Information Society and Information Ethics		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1 時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	2年後期		
必須・選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名
准教授	◎ 越智士郎

授業の概要	<p>社会の至る所で情報化やデジタル化が進められている。情報化やデジタル化は、生産性向上・産業振興・二酸化炭素排出量削減・高齢化対策などの社会的課題の解決に資することが期待される。その一方で、秘密情報・個人情報情報の漏洩と拡散、情報の捏造と拡散（フェイクニュース等）、SNSを使った事件（いじめ、犯罪等）などの新たな問題や課題も生まれている。現代の社会人は、これらの知識に加えて、情報セキュリティや知的財産権についての基本知識を身に付けておくことも必要となる。</p> <p>この授業では、情報化・デジタル化の内容と意義を理解するとともに、新たに生じている問題や課題とその対策について考察・議論する。</p> <p>（担当教員：企業での実務経験あり）</p> <p><注意>本授業では、スマートフォン、またはタブレット端末、またはPCを利用して、小テストや課題を行うので、いずれかを毎回持参すること。</p>
キーワード①	情報セキュリティ
キーワード②	個人情報保護
キーワード③	知的財産権
キーワード④	デジタルトランスフォーメーション
キーワード⑤	データ駆動社会

到達目標

到達目標①	情報セキュリティ、秘密情報保護・個人情報保護、知的財産権の基本事項を説明できる。（40%）
到達目標②	SNS、電子商取引、電子政府、電子決済、デジタルトランスフォーメーション(DX)、データ駆動社会の基本事項を説明できる。（30%）
到達目標③	情報化やデジタル化の進展にともなって生じている問題や課題を理解し、その対策を考察・説明できる。（30%）
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

ディプロマポリシー①	ディプロマポリシー②
3. スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
⑤専門分野に共通する基礎知識の向上	⑨経営情報に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
○		◎		

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○				

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	ガイダンス。「Society 5.0」について（歴史と背景、概要） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 シラバスを読むこと。「Society 5.0」についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第2回	情報セキュリティ（概念、事例、法律） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 情報セキュリティについてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第3回	情報セキュリティ（共通鍵暗号、公開鍵暗号、マルウェア、スパム、DoS攻撃） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 共通鍵暗号、公開鍵暗号、マルウェア、DoS攻撃のうち1つを選んでインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第4回	知的財産権（特許権、意匠権、商標権） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 特許庁のホームページの特許権、意匠権、商標権に関する説明を読んでおくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第5回	知的財産権（著作権） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	〔予習〕 文化庁のホームページの著作権に関する説明を読んでおくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第6回	視覚障害者と情報技術（外部講師による授業）	〔予習〕 視覚障害者が社会参加するためにはどのようにすれば良いかについて調査し、考察しておくこと。 〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第7回	秘密情報保護、個人情報保護 （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テスト	〔予習〕 営業秘密、または個人情報のいずれかについてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。〔復習〕 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分

	を行う。結果はすぐに自己確認できる。 小テスト実施後に解説を行う。)		
第8回	SNS（概要、メリット、課題） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	[予習] SNSについてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。[復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第9回	電子商取引（概要、メリット、課題） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	[予習] 電子商取引についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第10回	クラウドサービス（概要、メリット、課題） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	[予習] クラウドサービスについてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第11回	電子政府・電子自治体（概要、メリット、課題） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	[予習] 電子政府・電子自治体についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。[復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第12回	電子決済・電子マネー（概要、メリット、課題） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	[予習] 電子決済・電子マネーについてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。[復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第13回	デジタルトランスフォーメーション（DX） （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	[予習] デジタルトランスフォーメーション（DX）についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。 [復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第14回	データ駆動型社会、人工知能（AI）の活用 （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	[予習] 人工知能に関する最近の話題についてインターネットで調べ、その概要を把握しておくこと。[復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すとともに、課題レポートを提出すること。	60分
第15回	データ・人工知能（AI）利活用における留意事項 （理解度を自己確認できるように、授業中にMicrosoft Formsを使った小テストを行う。結果はすぐに自己確認できる。小テスト実施後に解説を行う。）	[予習] これまでの授業資料を確認しておくこと。[復習] 授業で説明したスライドを再確認し、小テスト結果を見直すこと。期末試験に向けた学習を行うこと。 なお、理解度を自己確認できるようにするため、これまで課したMicrosoft Formsを使った小テストを繰り返し実施できるようにする。	60分

評価方法	期末試験（80%）、各回の課題レポート（20%）にて評価する。 「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。
------	--

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上（DP1）	10%
専門性の向上（DP2）	10%
社会性の向上（DP3）	80%

使用資料<テキスト>	都度、資料を配布する。
------------	-------------

使用資料<参考図書>	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府ホームページ (https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html) ・情報処理推進機構ホームページ (https://www.ipa.go.jp/security/index.html) ・特許庁ホームページ (https://www.jpo.go.jp/) ・文化庁ホームページ (https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/index.html)
------------	---

授業外学修等	毎回何らかの課題を課す。提出された課題のうちフィードバックが必要なものは、次回の授業でフィードバックを行う。
--------	--

	日頃から新聞記事、テレビ番組などで、情報セキュリティ、秘密情報・個人情報保護、知的財産権、電子政府、デジタルトランスフォーメーションなどの情報収集をすること。
授業外質問方法	情報共有ツールやメール、授業の前後やオフィスアワーなどに直接声をかけてください。
オフィス・アワー	大学ホームページ（教員ページ）に掲載のとおり。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	多文化共生論		
(副題)	Multiculturalism		
開講責任部署	現代社会学部現代社会学科		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2時限
校地	東黒牧キャンパス		
開講時期	3年後期		
必須・選択区分	専攻必修		

担当教員

職種	氏名
准教授	◎ 石渡華奈

授業の概要	<p>The term “Tabunka Kyōsei” used in the course title was coined in Japan and originated in Kawasaki City, Kanagawa Prefecture. In January 1993, the keyword “Tabunka Kyōsei” first appeared in a Japanese newspaper. In January 1995, the Great Hanshin-Awaji Earthquake affected the Kansai area, and to provide support to foreign residents, the Center for Tabunka Kyōsei was established, in whose prospectus the following is stated:</p> <p>Based on the “Tabunka Kyōsei” philosophy that transcends differences in nationality, culture, language, etc., and promotes mutual respect, the Center aims to create and implement projects for “Tabunka Kyōsei” for both foreign and Japanese residents in Japan.’</p> <p>In this course, following this philosophy, we will consider and acquire the knowledge and methods of communication for people with different roots, cultural backgrounds, languages, genders, values, etc., to mutually understand, respect, and live together.</p> <p>All lessons are conducted in English, and emphasis is placed on deepening reflection through active discussion among students rather than imparting knowledge from the instructor.</p>
キーワード①	Intercultural Cohesion
キーワード②	Diversity
キーワード③	Discrimination
キーワード④	Equity

到達目標

到達目標①	1. To be able to explain what “Tabunka Kyōsei” means. (40%)
到達目標②	2. To be able to explain the current status and challenges of Tabunka Kyōsei society that Japan is facing and you are facing. (30%)
到達目標③	3. To obtain the improved ability to think in terms of diversity, discrimination, and equity. (30%)
到達目標④	
到達目標⑤	

卒業要件・資格関連など

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	社会福祉主事	スクールソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	--------	---------------

ディプロマポリシー

ディプロマポリシー①	ディプロマポリシー②
2. 国際人としての能力（専門性の向上）	

カリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー①	カリキュラムポリシー②
②国際人に必要な外国語能力の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
◎	○	◎	○	

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
○	◎		○		

授業計画表

回	【授業内容】	（事前・事後学習）	（事前・事後学習時間）
第1回	Guidance (Explanation of the outline, the goals, the weekly schedules, the evaluation methods, etc.) Introduction to Tabunka Kyōsei (Intercultural Cohesion)	[予習] N/A [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson.	45分
第2回	Part 1 Consider Diversity 1. Intercultural Social Skills Students will learn that diverse and characteristic “social skills” are required for communication in different regions, countries, and cultures. They will also learn that each person has their own culture, and therefore, the way of communication is different even in the same culture area. They will think about how to live well together when moving to a new environment or accepting new people.	[予習] Read Chapter 1 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第3回	Part 1 Consider Diversity 2. Tolerance Students will seek their own answers to what it means to be “tolerant”, “open-minded”, and “generous”. They will also consider the balance between what should and should not be “tolerated”.	[予習] Read Chapter 2 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第4回	Part 1 Consider Diversity 3. Assertion Training Students will consider and understand their communication type objectively. They will learn what “assertive” communication is and how they can convey their ideas and emotions to others. They will become able to communicate assertively when necessary.	[予習] Read Chapter 3 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第5回	Part 1 Consider Diversity 4. Cross-cultural Contact in Business Students will gain an opportunity to think about cross-cultural friction in business settings. They will learn that there are various evaluation methods and criteria and ideal personas for leaders. They will	[予習] Read Chapter 4 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what	90分

	also learn how to deal with their feelings when they feel something is going wrong.	ideas and thoughts you have gained from the lesson.	
第6回	Part 1 Consider Diversity 5. Japanese and Foreigners Students will reconsider the terms “Japanese” and “foreigners” and understand their diversity and complexity. They will learn the concept of “third-party response” and recognize how unreasonable it is in light of their own experiences. They will also learn that “foreigners”, as well as “gaijin”, can cause displeasure to others.	[予習] Read Chapter 5 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第7回	Part 2 Consider Discrimination and Emotions 1. Microaggression Students will realize that what we say and do without thinking carefully can be hurtful to others. By learning about microaggressions, they will raise their awareness of their own words and actions. They will think about how to eliminate microaggressions.	[予習] Read Chapter 7 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第8回	Part 2 Consider Discrimination and Emotions 2. Minority and Majority Students will learn that “majority” and “minority” are not absolute but relative. Those in the “majority” position will be able to be thoughtful of those in the “minority” position. Students will become willing to listen to voices that are often silenced in society.	[予習] Read Chapter 8 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第9回	Part 2 Consider Discrimination and Emotions 3. Universal Design Students will become aware of inconveniences in society that they do not notice when they belong to the majority or when they are not in trouble. They will gain imagination and consideration for people in different positions and situations from themselves. They will be able to see universal design as something close to them and look for opportunities to do something they can do.	[予習] Read Chapter 9 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第10回	Part 2 Consider Discrimination and Emotions 4. Stereotypes Students become aware of the irrationality and risks of the common phrases they hear every day, such as “people from Country A are X”, “that person is Y because he lives in B Prefecture”, and “men are always Z”. Students will learn about the concepts of stereotypes and essentialism.	[予習] Read Chapter 11 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第11回	Part 3 Consider Language Equity 1. Language Acquisition of Children Across Borders Students will understand that there are people who are struggling with language and culture without being known. They will learn that there are cases where their nationalities, mother tongues, cultures, etc. cannot be simply dealt with within a fixed framework.	[予習] Read Chapter 13 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第12回	Part 3 Consider Language Equity 2. Easy Japanese Students will learn the concept of “easy Japanese (Yasashii Nihongo)”. They will learn the key translation points into “easy Japanese” and actually translate some sentences. They will realize that “easy Japanese” is beneficial not only for non-native speakers and learners of Japanese but also for native speakers of Japanese.	[予習] Read Chapter 14 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第13回	Part 3 Consider Language Equity 3. Sign Languages Students will learn that sign language is a language and the mother tongue of the deaf and to think about what these facts mean. They will also learn the difference between Japanese Sign Language and Signed Japanese (Manually Coded Japanese) and think about its meaning. They will recognize that there have been misunderstandings and prejudices against Japanese Sign Language as a minority language.	[予習] Read Chapter 15 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第14回	Part 3 Consider Language Equity 4. Language Variation Students will become aware of the differences and	[予習] Read Chapter 18 of the textbook. Write answers to Warm-up Exercises in English. [復習] Write	90分

	similarities between “being able to speak a dialect” and “being able to speak a foreign language”. They will consider how we should be aware of the differences in language use and accents in an age when we live together with foreigners.	a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	
第15回	Part 3 Consider Language Equity 5. Tabunka Kyōsei Society and English Students will examine the merits and demerits of English-only culture in Japan. They will learn the concept of World Englishes and English's role as a Lingua Franca and consider what kind of English people should learn.	[予習] Review what has been covered in the lessons in Weeks 1-14. [復習] Write a short essay on what you have learned in the lesson and what ideas and thoughts you have gained from the lesson.	90分
第16回	Final Examination		

評価方法	Active participation in class activities: 30% Assignments: 30% (15% for completion and submission by the due date, 15% for quality) Final Exam: 40% 評価は「富山国際大学評価基準」に従って行う。
------	---

ディプロマポリシー配分比率

	ディプロマポリシー配分比率
人間性の向上 (DP1)	40%
専門性の向上 (DP2)	40%
社会性の向上 (DP3)	20%

使用資料<テキスト>	『多文化社会で多様性を考えるワークブック』 有田佳代子 / 志賀玲子 / 渋谷実希 編著 (研究社)
授業外質問方法	The next period after class is suitable. Otherwise, please make an appointment via email (ishiwatari@tuins.ac.jp) etc.
オフィス・アワー	1:00-2:30 pm on Thursdays in Office 425